和紙と洋紙について

ぐっさん

１、序文
紙、と聞いてあなたは何を思い浮かべるだろうか。
新聞紙、教科書、ノート、ティッシュペーパー、お菓子の包装、障子など、身の回りの様々なものが思い浮かぶだろう。
このように紙は日本人にとってとても身近なものである。これは、古来から言えることで、昔は今よりもっと紙と日本人は密接な関係であった。例えば、紙製の傘、物を結えるための紙縒り(こより)、さらには古代日本人が紙の衣服を着用していたと思われる描写が万葉集にある。それだけでなく、神と紙の発音が同じであることは、紙が神の象徴として用いられたからという説もある。神道でよく見かけるものに紙製のものが多いのもこれによるといわれている。

しかし、一口に紙といってもその種類もたくさんあり、紙に様々な繊維を織り込むことである目的に特化した紙を作ることも可能である。

ところで、折り紙に使われる紙といわれて誰もが思いつくのは、15cm 四方のパステルカラーの紙ではないだろうか。これは、大ざっぱに種類分けすれば、「洋紙」というくくりに入る。折り紙だけでなく現代ではほとんどの紙は「洋紙」である。
洋紙でないものの１つとして「和紙」がある。こちらは最近では見かけることこそ多くはないものの、日本に昔からある紙であり、洋紙が日本に伝来する前では日本のほぼすべての紙が和紙であった。

２、和紙と洋紙の対比
では、洋紙と和紙では何が違うのだろうか。なぜ、今の世の中では和紙よりも洋紙のほうがたくさんあるのだろうか。洋紙と和紙の違いについて簡易的に対比しながら検証していく。

まず、原材料について比較する。洋紙の主な原材料は、木材パルプ、と呼ばれる樹を伐採してできるものである。それに対して和紙は、主に雁皮(がんぴ)、楮(こうぞ)、三椏(みつまた)などの植物を使っている。また、それらの植物で必要なのは靭皮組織と呼ばれる皮の下の部分だけである。木材パルプを作るために樹木を丸々一本伐採しなければならない洋紙に比べて、靭皮組織を使用する和紙は環境にかける負担が少ないだけでなく、樹木の再生にかかる時間も圧倒的に短い。パルプの原料となる樹木が十分に成長するには５０年以上かかるうえに、間伐などの手入れが必要であるが、楮などは枝の一部を切り取れば、わずか２、３年でもとの状態にまで戻ってしまい、手入れの必要もない。

次に、製造工程の違いについて比較する。洋紙は主にパルプを使い、製造過程で熱処理や薬品を多く使い機械漉きによって生産する。その結果、１本の繊維の長さは短くなって、薬品の影響で紙の強度が落ちてしまい、結果として保存性が低く、劣化(紙の変質、変色)が起きやすくなってしまう。一方和紙は、１つ１つの過程にかける時間が長く、すべて人力で丁寧に処理をしている。また、途中で紙を弱くする薬品も使わない。よって、１本の繊維の長さは長くなり、紙の強度も落ちないで、劣化にも強くなる。

３、考察
原材料の違いから分かるように、環境にかける負荷が少ないのは和紙のほうである。しかし、近年では洋紙のリサイクル技術が発達したおかげで、パルプだけでなく古紙も多く用いられており、その古紙も何回もリサイクルできるようになりつつある。リサイクルそのため一概に和紙のほうがエコだ、とは断言できなくなりつつある。

紙の強度の点では和紙は洋紙より優れているが、繊維の長さが長いがゆえにインクとの相性が悪いという欠点もある。繊維が長く紙の表面に何も加工を行わない和紙は、ペンやプリンターのペン先が繊維に引っかかってしまったり、繊維に沿ってインクが滲んでしまったりしてしまう。その点、洋紙は言うまでもなくインクとの相性が良い。

製造過程を見ればわかるように、和紙が洋紙に決定的に劣る点は、生産性とコストである。洋紙は機械を用いて効率的に、かつ特別な技術を持った人間を必要とせずに生産できる。対して和紙は繊細な技術を持った職人にしか作れず、すべて手作業であるからもちろん時間もかかる。よって、必然的に和紙のほうがコストが高くなってしまう。

もちろん和紙には和紙の良さがある。圧倒的ともいえる強度のおかげで、きちんと手入れをすれば半永久的に保存することができる。また、毛筆との相性は洋紙よりも格段に良いし、手漉き和紙にしか出せない色合い、手触りもある。

しかし前述の理由から大量生産大量消費の現代社会では洋紙の

ほうがより我々の生活に適しているのが現状である。

４、まとめ

ここまで和紙と洋紙の違いについて述べてきたが、紙について少しは興味を持っていただけただろうか。身近にありながらこれまでさほど気に掛けることもなかったであろうが、身近にあるからこそ知れば知るほど面白いのである。ここまでに述べてきたことよりもっと詳しいことも、少し調べればすぐに知ることができる。ここでは残念ながらそのわずか一部しか書き記せないが、是非とも一度、紙の文化について触れてみてほしい。特異的紙文化を持つ日本人として、その世界に触れておくのもいい経験になるだろうと思う。紙の世界は奥深く、様々な魅力を持っている。(その魅力の一つが折り紙であることは言うまでもない。)

折り紙の魅力については、他のページに様々な形で綴られているので、是非とも読んでほしい。

５、参考文献

・『和紙の伝統』　著・町田誠之　出版・駸々堂出版
・『和紙の素晴らしさ』　著・Dard Hunter　訳・久米康生　出版・勉誠出版
・『和紙』　著・加藤晴治　出版・産業図書株式会社
・http://www.minnanomori.com/use/u_info06/u_602.html
・http://www.fuji-cci.or.jp/paper/koutei.html
・http://www.hm2.aitai.ne.jp/~row/aboutwashi/youshi.html